



開設当初、“東洋一の団地”と呼ばれた武里団地。高齢化が進む中、近隣の学生が移り住んで、地域の活性化に一役買っている

なっている。対策の一つが官学連携団地活性化推進事業。近隣大学の学生に武里団地に住んでもらい、地域貢献活動を条件として家賃を援助する。日本工業大学と埼玉県立大学の大学生が2011年に2人、2012年に7人が入居した。

大学側も入居した学生の地域貢献活動を積極的にバックアップしている。日本工業大学建築学科の佐々木誠准教授は、「机上の学問だけでなくフィールドワークが大切。授業の一環として、取り壊された団地跡地の活用を考えさせたり、高齢者とのふれあい活動に参加させたりしているが、現場から学生が学ぶことはとても多い」とその意義を語る。

東武伊勢崎線の武里駅からせんげん台駅間に広がる武里団地は、総戸数5331戸のマンモス団地だ。日本住宅公団（現UR都市機構）が開発を手がけ、1966年から管理を開始した。5階建て程度の中層の建物が広大な敷地にゆったりと配置され、当時は“東洋一の団地”と呼ばれた。

最近では地域内の人口の減少や高齢世帯の増加が顕著になり、地元の春日部市でも活性化が課題と